

第12回(2007)「植村直己冒険賞」授賞式・記念講演会 エベレストに北稜(中国側)から登頂成功

受賞者 野口 健^{けん}さんが来市

今年2月12日に発表した2007「植村直己冒険賞」受賞者の野口 健さん(34歳、東京都在住)の授賞式を開催します。

授賞式に引き続き、野口さんにこれまでの山への取組みの思い出などを講演いただきます。皆さん、ぜひ、誘い合わせてお越しください。
《問合せ》植村直己冒険館 ☎44-1515

日時 6月7日(土)午後1時30分開会
(開場:午後0時30分)
混雑が予想されますので、早めにお越しください。

場所 日高文化体育館

内容 ・オープニング
・植村直己冒険賞の授与
・野口 健さん記念講演会

入場料 無料

【府中小学校の取組み】

授賞式のオープニングは、植村直己の出身校である府中小学校児童の皆さんに飾っていただきます。同校では、年間を通じて植村直己を学習テーマに取り入れ、その一環として授賞式のステージに登場していただいています。野口さんは今年秋に同校を訪れ、児童とともに清掃活動を行う予定です。



【河合雅雄さん(選考委員)が来市】

今回の授賞式には、選考委員を代表して、河合雅雄さん(県立人と自然の博物館名誉館長)にお越しいただき、野口 健さんが選考された経過等をお話ししていただきます。



河合さんは、本賞設立当初から選考をお願いしています。

野口 健さんってどんな人?

1973年、アメリカ・ボストン生まれのアルピニスト(登山家)。1999年に25歳でエベレストの登頂に成功し、7大陸最高峰世界最年少登頂記録を樹立。2000年からはエベレストや富士山のごみ問題を解決するため、清掃登山に尽力する。



《主な冒険経歴》

- 1989年
8月 フランス・モンブラン(4807m・旧ヨーロッパ)登頂
12月 タンザニア・キリマンジャロ(5895m・アフリカ)登頂
1992年
9月 オーストラリア・コジウスコ(2240m)登頂
12月 アルゼンチン・アコンカグア(6965m・南アメリカ)登頂
1993年
6月 アメリカ・マッキンリー(6149m・北アメリカ)登頂
5大陸最高峰世界最年少登頂記録達成(19歳)・日本人 マッキンリー最年少登頂記録
1994年
12月 南極・ビンソン・マシフ(4897m)登頂
6大陸最高峰世界最年少登頂記録達成(21歳)
1996年
1月 ロシア・エルブルース(5642m・新ヨーロッパ)登頂
1999年
5月 ネパール・エベレスト(サガルマータ・8848m・アジア)登頂
7大陸最高峰世界最年少登頂記録達成(25歳)
2000年~03年(4年連続) エベレスト清掃登山
2007年5月 エベレストに北稜(中国側)から登頂



野口 健ホームページアドレス
<http://www.noguchi-ken.com/>

東井義雄賞

第6回いのちのことはを募集します

テーマ「私にとって忘れられない家族のあの一言」



いのちの教育を探索し続けた偉大な教育者、東井義雄さん(但東町佐々木出身)は、人々の心の支えとなつた多くの言葉を残しました。

市では、その東井さんの遺徳をしのび、功績を顕彰するため、この賞を設けています。皆さんに生きる勇気と希望を与えた、「ことば」を募集します。募集作品 テーマは「私にとって忘れられない家族のあの一言」です。

私の背中を押してくれたかけがえのない言葉、温かくて心に残る言葉、大切な家族からもらった、そんな言葉を募集します。規格 60字以内の「ことば」と、そのときの状況を400字以内で記述
応募資格 どなたでも1人何点でも可
過去に入賞された作品については選考除外とします。
募集期限 10月1日(水)

応募方法 住所、氏名、年齢、性別、電話番号、メールアドレス(任意)、学校名(任意)を記入の上、郵便、ファックス、メールで直接に、または学校、団体、公民館などでまとめて応募ください。

募集要項は、文化振興課および各教育分室、各地区公民館などにあります。賞 100編を選考し、賞状ならびに次の副賞を授与
・東井義雄賞(5編)：賞金3万円と記念品
・秀作(10編)：賞金1万円
・特別賞(10編)：記念品
・佳作(75編)：記念品

応募結果は、平成21年1月下旬に入賞者のみに直接、通知します。
その他
・平成21年2月ごろに、入賞作品発表会(表彰と講演会等)を行い、入賞作品100編を掲載した冊子を作成

する予定です。

応募作品は、一切の権利は市教育委員会が有し、返却しません。

入選者の氏名、市区町村名、学校名などが新聞などに掲載される場合があります。

《申込み・問合せ》教育委員会但東分室内「東井義雄賞いのちのことは募集係」

☎21・9036
FAX 54・1025
メールアドレス
toi.kinenkan@city.toyooka.lg.jp

「いのちのことは」の冊子を販売しています!

第2回、3回、4回、5回の入選作品100編を掲載した冊子をそれぞれ1冊600円で販売しています。皆さん、ぜひ、購入ください。

《問合せ》教育委員会但東分室21・9036

書之美に見る豊岡の巨匠(中)

「仲田光成の世界」

書之美に見る豊岡の巨匠について、美術評論家の田宮文平さんに評論をいただき、3回シリーズで紹介いたします。

《問合せ》文化振興課 ☎23・1160

仲田光成(本名幹一)は、明治32(1899)年、城崎郡中竹野村(現豊岡市)に生まれた。「光成」の雅号は、百歳の祝宴の際、尊崇する藤原行成に因んで一門の人から贈られたものである。弟子が師に号を贈るのは稀有のことであろう。幹一は、長兄光之助等の能筆に恵まれて、幼少にして一寸四方(3×3センチ)に300字を書き込むという離れ業を成し遂げて注目された。22歳の時には、早熟の才能を見込んだ同郷である学習院教授の木崎為之の推挙によって学習院に奉職することになった。ここで近代かなの権威者である尾上柴舟と運命的な出会いをすることになる。

第2次大戦の東京大空襲では、自宅を焼失したが、戦後は徳川義親邸に仮寓しながら来るべき時代のかな書を藤原佐理等によって研究し、「は



作品「はる風や堤ながうして家遠し」